



林業試驗場 熊本支場  
宮崎分場概要



02000-00122462-3

1952. 1. 15.

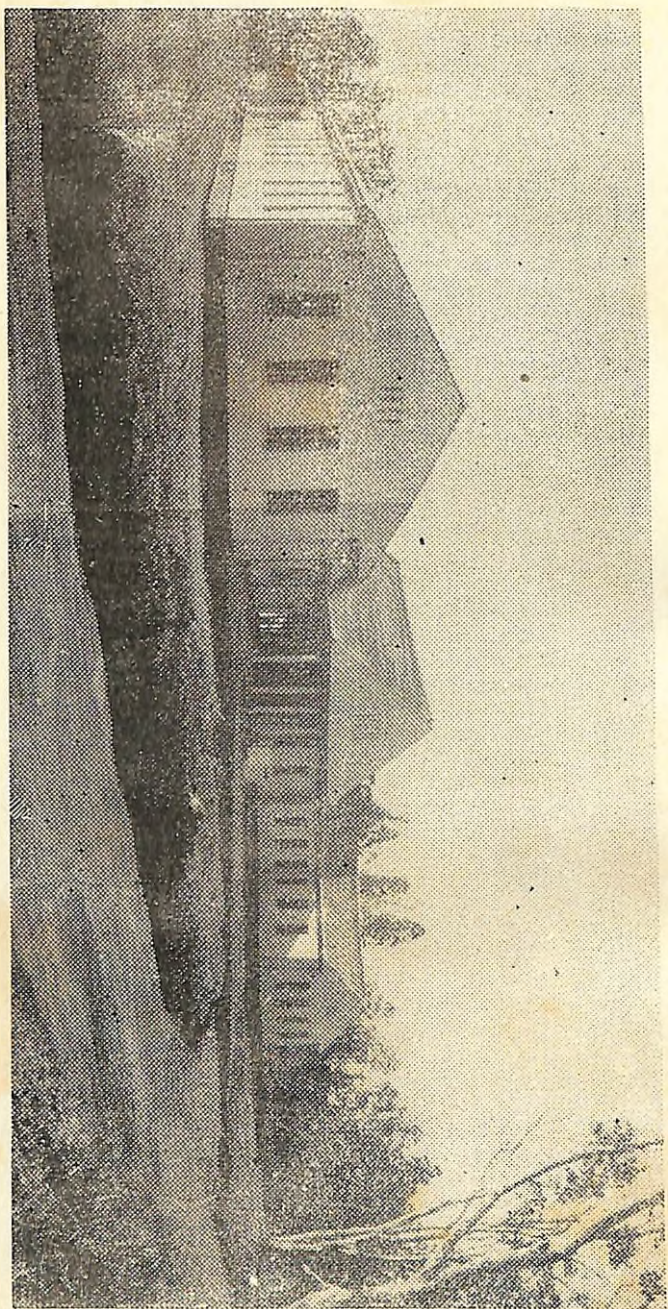
林  
九  
19

# 目次

1	位	置	.....	一
2	目	的	.....	一
3	沿	草(附)宮崎市内へ移設の経過	.....	一
4	施	設	.....	三
5	従来の研究項目	.....	.....	四
6	今後の研究項目	.....	.....	五
7	試験成績	.....	.....	七
8	鑑定並指導事項	.....	.....	八
9	組織	.....	.....	八
10	職員	.....	.....	八

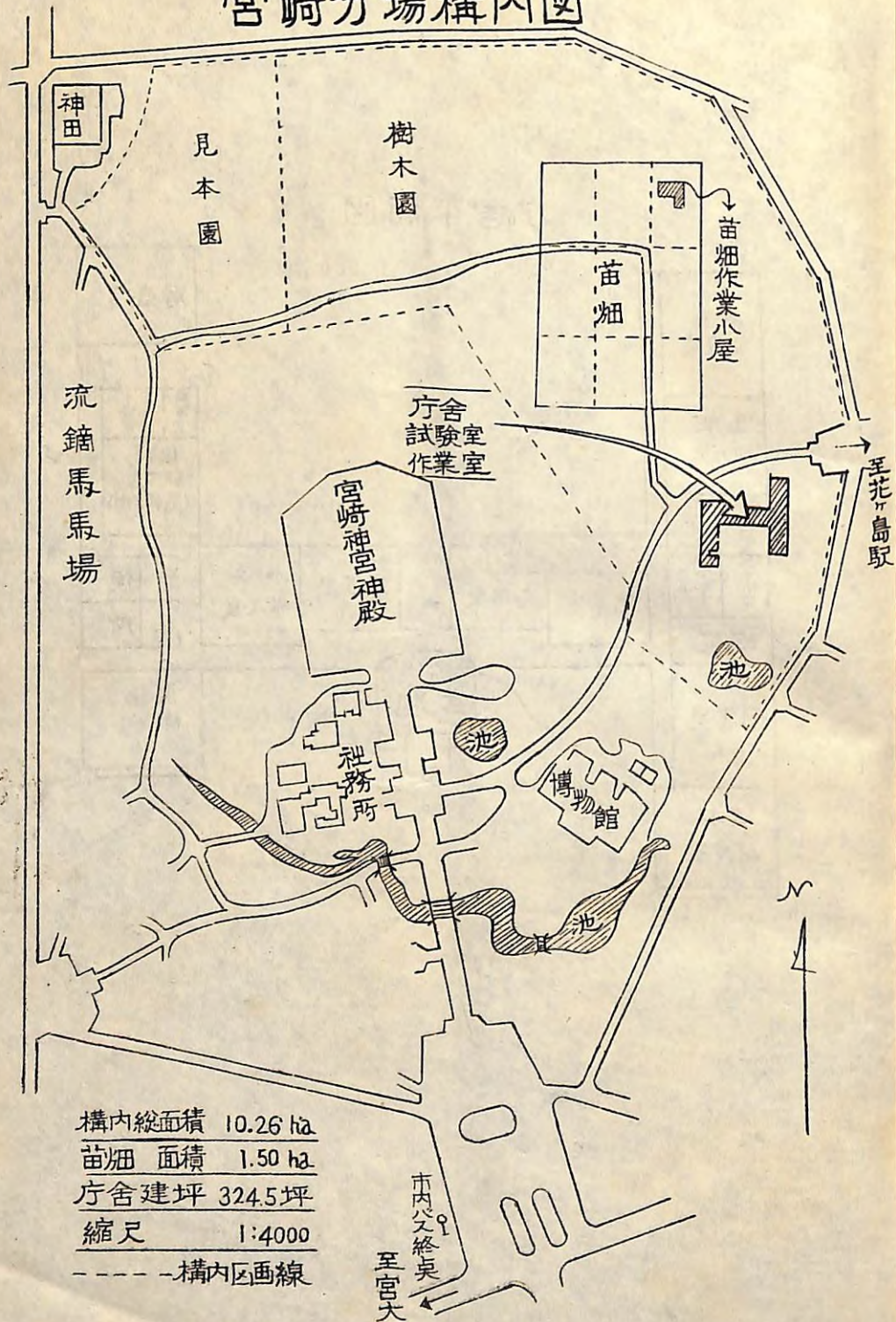
(附図) 構内図 庁舎平面図 庁舎写真(-)







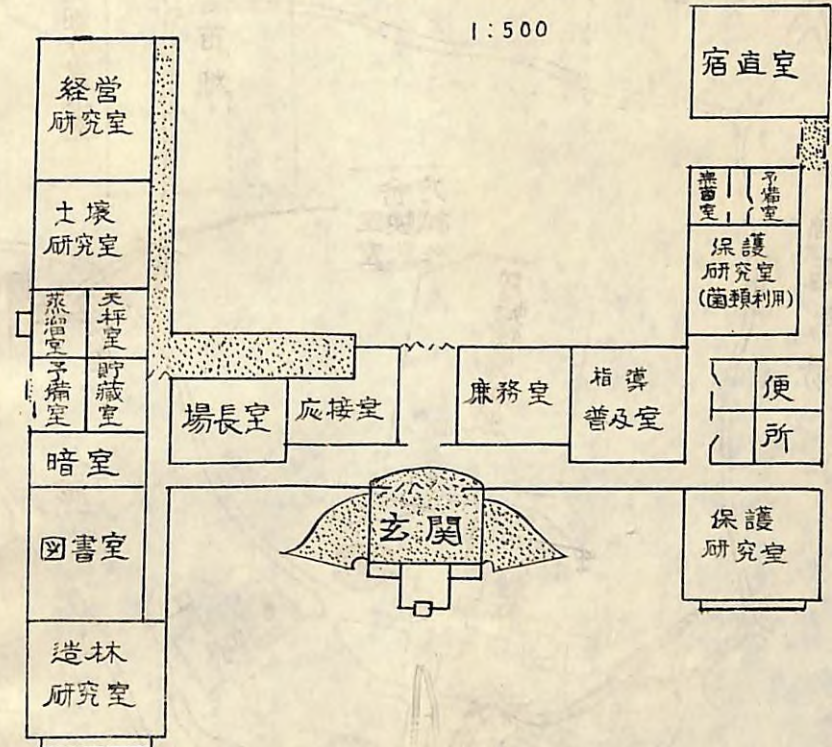
# 宮崎分場構内図





庁舎平面図

1:500



## 試験場概要

林業試験場熊本支場宮崎分場

### 1 位置

林業試験場熊本支場宮崎分場は宮崎市神宮町四三〇番地の地籍に属し、神武天皇を御祭神とする宮崎神宮の境内に位置し、宮崎市の北部省線花ヶ島駅より西方約五百米、或は宮崎交通会社市内バス終点神宮前よりも同じく約五百米の至便の箇所にある。都心の喧雑を離れ近くに平和台、遠くに高千穂の峯を仰ぎ、四周围内の翠の森林に囲まれ、時に神殿の和楽の洩れ聞ゆるのみの静寂の境にあり、更に県立博物館、宮崎大学、蚕糸試験場等の文化的諸施設が近くに所在し研究機関としては好適の位置にある。

### 2 目的

当分場は熊本支場の地方機関として九州南部地区に於ける地方的な特殊問題、即ち暖帯気候、国土保安に關聯する特殊立地、地方的な植生並に施業実態を基調として、実地に即した試験を行う。其の内容には立地環境、育種、育苗、更新、病虫害防除、有用菌利用、防災等が含まれる。且つ、試験の成果及び一般林業技術の普及指導を行い、国民の愛林思想の涵養を図るを目的とする。此の為に特に指導普及員室を設けて県の普及指導員の当施設を利用しての調査研究、或は共同研究によつて其の使命の完遂を期すると共に教育機関の教材としての利用、林業家の実地への応用等広く一般の利用に供するものである。

### 3 沿革

一、昭和十六年十一月十八日 林業試験場田野苗圃設置され農林技手江口昌介初代主任に命ぜられる。



- 一、昭和十九年五月三十一日 林業試験場田野試験地に変更。
- 一、昭和二十二年十二月一日 林業試験場熊本支場田野分場に変更、農林技官吉筋正二初代分場長に命ぜられる。
- 一、昭和二十五年十一月三十日 農林技官橋本与良分場長に命ぜられる。
- 一、昭和二十六年七月二十日 林業試験場熊本支場宮崎分場となり宮崎市内に移転し農林技官橋本与良引続き分場長を命ぜられる。

#### (附) 宮崎市へ移設の経過

昭和十六年当時の本場農林技師佐藤敬二氏の斜面混播試験を実施する目的で宮崎郡田野村宮崎営林署小谷苗圃の一部を借用し試験地を設定し、爾来クスの品種及養苗試験、コウゾ増殖試験等特用樹種を主にした試験を実施して来た。昭和二十二年に林業試験場の機構が改革された時に田野分場となり熊本支場の地方機関となつたが、分場の使命としての九州南部全般の林業を対象として研究する為には同地では不便であること、拡充の余地の少ないこと、指導普及上より位置的に不適であること等の為に将来の発展を期待することは不可能であるので宮崎市内へ移転すべきことを本場造林部長大政正隆氏、支場農林技官石崎厚美氏より提案があつて其の方針が決定された。候補地の選定が引続き行はれ産母国有林、住吉村の宮崎大学牧場、江平池埋立地等の実査も行われたが遂に宮崎神宮境内を最後の候補地とした。然し其の實現は極めて困難な状態にあつた。偶々宮崎県当局に於て、当県林業の産業的地位の重要性に鑑み県立の林業研究機関設立の必要性を痛感し其の實現の計画もあつたが、寧ろ国立の林業試験場設立を推進し、之が拡充強化を図るを適切と認め、茲に前宮崎県知事安中忠雄氏、宮崎県林務部長大賀正男氏、前熊本営林局長塩見友之助氏、熊本支場長小幡進氏を中心として宮崎分場移設計画が本格化された。設立位置を宮崎神宮境内とし林業試験場、宮崎県及熊本営林局の協力により諸施設を行い、完成後は器具整備、研究員の充実、經常の運営は国費を以て実施し、営林局署の事業に必要な

研究と共に特に宮崎県当局の要望する研究の實施、或は共同研究を行う事等の基本方針を決定した。其後宮崎県林務部、宮崎営林署の絶大な支援に依り候補地としての神宮関係の折衝、所要木材の搬出の計画、苗畑の開墾等着々進捗し昭和二十六年十二月には附帯工事も完成し一応の移設事業が完了した。

#### 4 施設

- 一、敷地 一〇、二六三 ha、借地
- 二、庁舎、実験室 三二四・五坪、木造平屋、セメント塗  
北面の略H型をなし花ヶ島よりの神宮裏参道に面し場長室、応接室、事務室、普及指導室、造林研究室、土壌研究室、経営研究室、保護研究室、菌利用研究室よりなり附属室として暗室、図書室、倉庫室、豫備室、蒸溜室、天秤室、殺菌室、無菌室、宿直室、小使室がある。
- 各部屋に水道、電熱の設備をしている。

#### 三、苗畑 一・五 ha

敷地内にあり南北一五〇m、東西一〇〇mとし東側はヒノキ三〇年生前後の森林をなし、四周老齡杉の点在しているが西部は疎開している。

一区約0.8 haの九区劃の試験用畑に区切り通路には両側にチャ、サザンカ、ツツジ類を植えて美観を沿える豫定である。苗畑はスギ挿木試験、特用樹種挿木試験、台灣樹種養苗試験、短期育苗試験等の苗畑試験を実施する外、見本林、林地植栽試験用の苗木を育成する

苗畑の東北端に作業小屋を設け苗畑試験測定等を行う。

#### 四、実験林、見本林



苗畑より西方約七haの区域にスギ品種別植栽、マツ品種別の植栽を行う外特用樹種、外国樹種、主要樹種を植栽し見本林を作る計画である。

#### 五、其他施設

堆肥舎、温室、ガラス室を設け諸試験の完全を期する外、庭園樹を養成し域内の美化を図る豫定である。

### 5 従來の研究項目

#### 1、クス養苗試験（挿木試験、播種試験）

クスの挿木の時期は三月上旬より五月に亘る間が良好で母樹年齢は四、五年生迄が最も良い。播種養苗後山地出しの場合の切断部の挿木は三月下旬で八五%の活着率を得、実用の価値がある。床土は圃土より粘土の方が良い。

——特用樹種に関する研究 第十二報 クスの挿木について 佐藤敬二、江口昌介

日本林学会九州支部 一九五〇年講演発表

#### 2、アカシア養苗試験（挿木、埋条試験）

#### 3、苗畑三要素試験

アカマツ、クロマツ、イチヒカシ、クスに就て実施、試験測定値は本場に一部送附。

#### 4、椿、山茶花天然林撫育試験

川内営林署管内長城国有林に試験地を設け山茶花撫育試験を実施中である。

#### 5、椿、山茶花結実促進試験

椿、山茶花の結実促進の目的を以て太幹の挿木試験を実施したが良好な結果を得なかつた。尙田野町の畦畔植栽のサザンカについて樹型、花型、種子、灰像、採油量を調査し優良品種を検索中である。

——山茶花の研究（豫報）石崎厚美、佐伯岩雄、森田健次郎

日本林学会九州支部大会 一九五〇年講演発表

#### 6、林産纖維植物の増殖試験（コウゾ）

コウゾの挿木法に依る実地試験を実施し、空中湿度を高く且つ温度を上げる為に簡易框を以て挿木床を作り養苗試験を行った。その結果発根状態は良好であるが、線虫類等の被害が多く其の成績を取纏める迄に至らなかつた。継続試験の豫定である。

尙灰像によるコウゾ品種識別については宮大外山教授及び当分場安藤技官の協同研究を行い近く発表の豫定である。

### 6 今後の試験項目

#### 1、亜熱帯樹種増殖試験

台湾に於て植栽され良好な結果を得ている。モクマオウ、アカシア、ユーカリ、相思樹或は果樹類の養苗を実施し林地、海岸林、シラス砂防植栽等の価値を検討する。

#### 2、椎茸に関する研究

九州南部の気象条件は椎茸栽培に好適であるが栽培増殖法は尙改良の余地もあるので栽培法の改良試験を実施すると共に優良品種の検索、増殖、及び母菌培養についての改良法を考究する。

#### 3、低肥杉に関する研究

オビスギは挿木をした場合に他地方の品種と比較して其の発根状態に相当差異があり其の特質を究め一年生造林をするのに最良の方法を確立する必要がある。尙大量生産の場合の挿穂採集、連年育苗の採穂等につき適切な方途



を考究する必要があるので此等の挿木試験を実施する。

オビスギについては多数の品種が挙げられているが其の立地別の生長の相違を調査すると共に既肥地方を中心としての環境調査を実施しオビスギの植栽の適当な区域の調査を実施する。

#### 4、特用樹種に関する研究

##### (イ) コウゾ増殖試験

継続試験として更に線虫類防除を主として挿木養苗試験を実施する。

##### (ロ) ヤマモモ増殖試験

ヤマモモの優良品種は専ら接木法によつてゐるが其の得苗率も少く挿木も事業的には不可能な現状であるので挿木増殖の目的で其の基礎的な試験を実施する。尙海岸林、砂防林等の植栽用として播種増殖試験を実施する。

##### (ハ) サザンカ品種検索及増殖試験

継続中の天然林撫育試験を実施する外に優良品種の検索及び此の挿木増殖試験を行う。

#### 5、海岸林に関する試験（ユに含む）

海岸林の現在の主林木であるクロマツはマツクイムシで食害枯損し全滅してゐるので此が再生としてクロマツ以外にモクマオウの混植、副林木としてヤマモモ、マテバシイ、アカシア等の混植、更に砂丘地土壌改良としてラウグラス、ルービン植栽伏込、更にマオウ等の植栽利用試験を実施する。

#### 6、短伐期林育成試験

パルプ資源として必要なマツ、モミの植栽にヤマモモ、アカシアの混植効果、ユーカリ、セコイア等の生長良好

な樹種の植栽試験を実施する。

#### 7、薪炭林に関する試験（エに含む）

#### 8、土壌調査（イス、タブ林に関する調査）

大隅半島のイス、タブ林を中心として森林土壌調査を実施する。

### 7 試験実績

実施された試験調査については其の都度関係機関を通じて発表する事にしてゐるが現在迄の当該関係の発表は次の通りである。

#### (1) 特用樹種に関する研究（第十二報）

クスの挿木について 佐藤敬二、江口昌介

日本林学会九州支部大会 一九五〇年講演抄録

#### (2) 山茶花の研究（豫報） 石崎厚美、佐伯岩雄、森田健次郎

日本林学会九州支部大会 一九五〇年講演抄録

#### (3) スギ挿木雑感 橋本与良

暖帯林 昭和二十六年九月号

#### (4) 塩田器具用木材に就て 安藤正武

暖帯林 昭和二十六年十月号

#### (5) 灰像法による楮品種の鑑識 外山三郎、安藤正武

林業試験場研究報告に発表豫定



8 鑑定及指導

種子発芽鑑定、及び育苗、特用樹種増殖、土壤調査等に関する指導を実施する。

9  
組  
織

庶務課

経営研究室

造林研究係

保護研究係

(病虫害)

保護研究係Ⅱ（菌類利用）

樹木園係

分場

分場長

10 現職員

農林技官

又橋外  
龜本山  
寺与三  
郎

農林技官

吉木  
筋  
正  
一

農林技官

藤正

助  
手

洞

助  
手

染鄉正

雇

小池順

助  
手

佐伯岩

副手香川照雄

副手瀬戸鈴種

副手妹尾勝義

業助 手上中 作次郎

藥助手藥池秀夫

業手  
川添  
強清

昭和二十七年<sup>い</sup>度<sup>ど</sup>より<sup>より</sup>更に<sup>さらに</sup>研究員の増加の豫定である。



印刷月日 昭和二十七年一月一〇日  
発行日 昭和二十七年一月一五日  
(代 謄 寫)

宮崎市神宮町四三〇番地

編集兼  
発行所 林業試験場熊本支場宮崎分場

宮崎市旭通三ノ三

印刷所 株式会社 小柳印刷所

宮崎市旭通三ノ二

印刷人 小柳 清



